

## (2) 担い手への農地集積・集約化 事例⑬ (河北町北谷地地区)

モデル地区

重点実施区域

## 事例のポイント

- 基盤整備事業をきっかけとした耕作権の移転による農地の集積・集約活動を行った。
- 分散ほ場を解消し、地域の中心経営体に農地の面的集積を行った。

## 地区概要・特徴

- 水稻を基幹作物とし、大豆等の土地利用型作物や果樹、野菜を組み合わせた複合経営を行っている。
- 小規模農家が多く、大規模経営農家も経営農地が分散しているため、効率的農業経営を目指すため農地を集約する必要があった。
- 農業者の高齢化が進行し担い手不足を解消するため、話合いを通して集落営農組織を法人化した。

## 取組み経過・支援等

- 土地改良事業を推進する地域内協議会において、担い手の耕作農地が著しく分散していることが判明し、農業競争力強化基盤整備事業の実施を通して、基盤整備事業と併せた農地の面的集積の必要性を確認した。
- まとまった形で担い手に再集積するための検討が地域内協議会で行われた。
- 地域内農地をまとまった形で農地中間管理機構に貸し付けることで、地域集積協力金が交付された。

## 成果

- 担い手農家に農地を集約して配分したことで、作物の団地が形成され、作業の効率化が図られた。
- 集落営農組織の法人化を行うことにより、経営基盤の拡大で 117.7ha の農地を機構から計画的に借り入れた。
- 地域集積協力金の活用
  - ・整備（田面均平、道路・水路等の維持補修工事）
  - ・協議会運営費

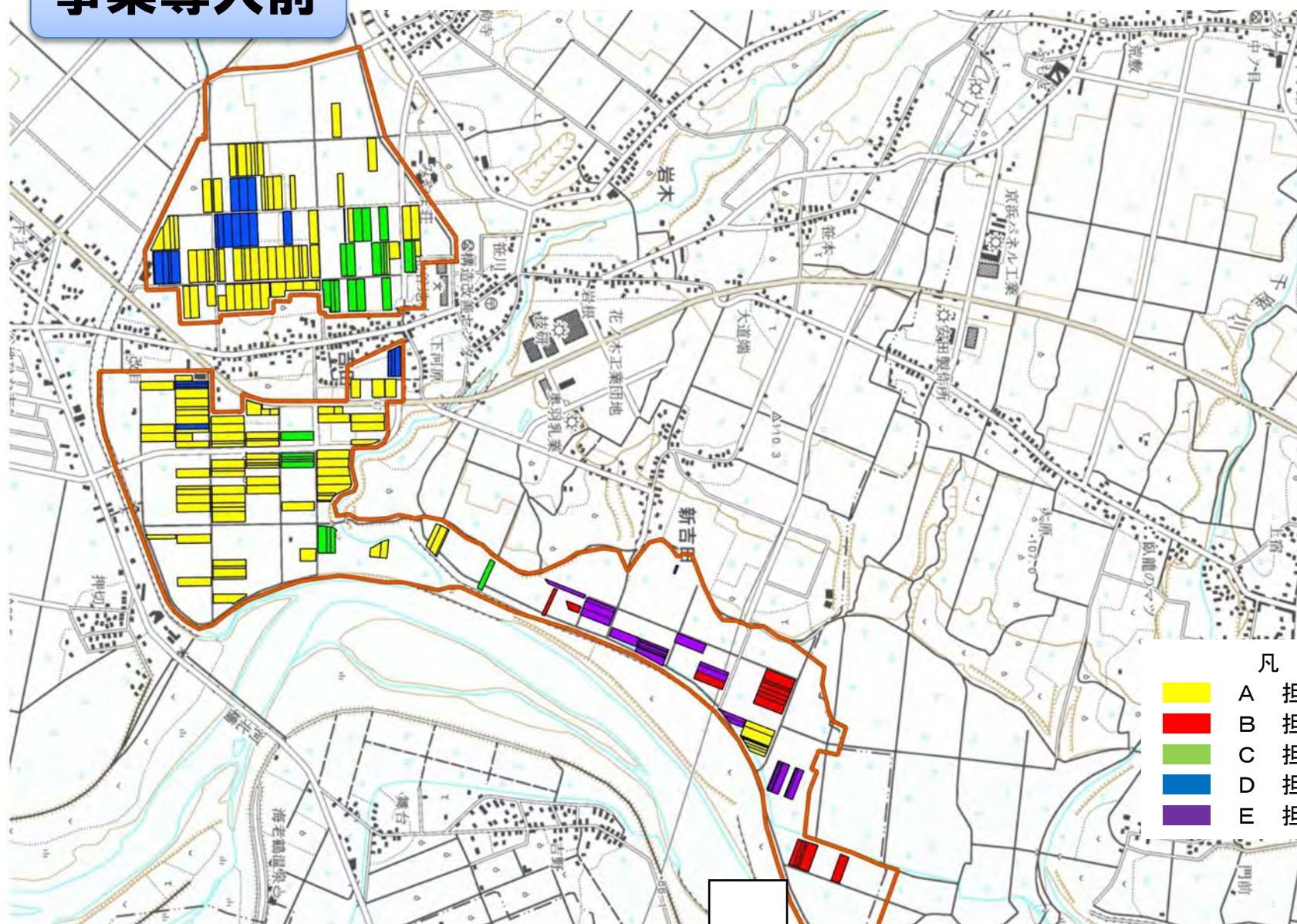


地域内会議の状況



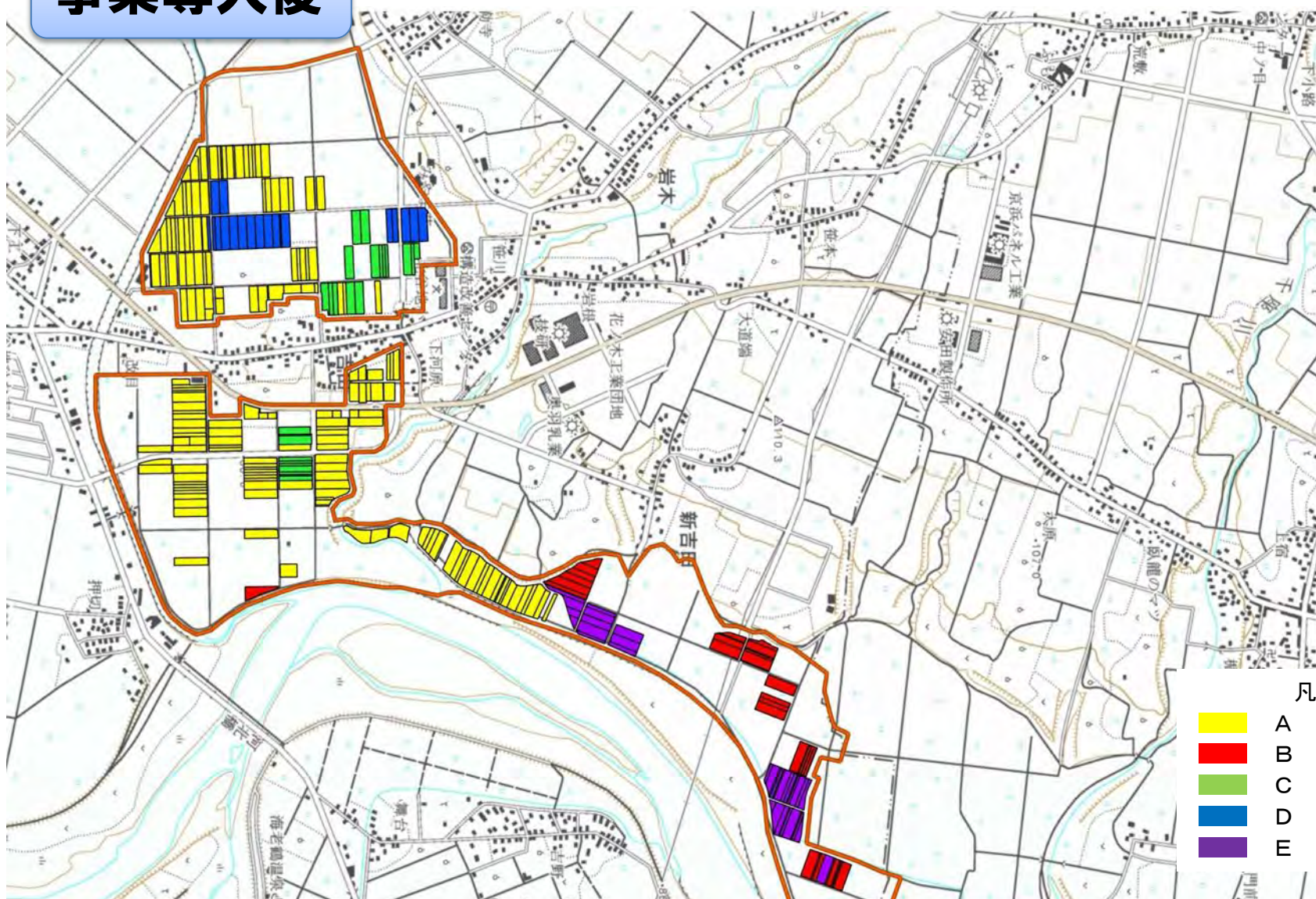
担い手の作業状況

**事業導入前**



- 凡 例
- A 担い手農家
  - B 担い手農家
  - C 担い手農家
  - D 担い手農家
  - E 担い手農家

**事業導入後**



- 凡 例
- A 担い手農家
  - B 担い手農家
  - C 担い手農家
  - D 担い手農家
  - E 担い手農家

項目	地区面積①	担い手面積②	うち機構借受面積	担い手数	集積率②/①	主な担い手
事業導入前	137.3 ha	73.0 ha	117.7 ha	28 経営体	53.2%	農事組合法人
事業導入後		91.8 ha		26 経営体	66.9%	ファーム吉田